

令和 8 年度 岐阜県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、積極的に自分の思いや考えを発信し、
伝え合う喜びを実感できる児童の育成

目標

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①言語活動に対する理解が進み、目的や場面、状況等の設定及び、効果的な中間指導を行う授業が増えた。
(参考：児童が授業中の50%以上英語による言語活動を行っている割合 R5:100%)
②「英語の勉強が好き」な児童の割合が増加（児童質問紙：R3:65%⇒R6:69%）

未だ改善が必要な点

① 学習到達目標の設定、公表、達成状況の把握は100%(R5)であるが、出口の姿を具体的に描けている授業は少ない。
②デジタル教科書の活用は浸透してきたが、効果的な活用に課題がある。(参考：R5:47%)

2. 要因分析

①教育課程研究協議会及び各研修会等において、言語活動を通した指導をテーマに取り上げ、特に中間指導の在り方について協議・演習等を実施したことで、教員の意識が向上したと考えられる。
②児童にとって、魅力的な目的や場面、状況等を設定し、言語活動に取り組む授業が増えたことで、英語の勉強が好きな児童の割合が増加したと考えられる。

①教員が学習到達目標作成の意図を十分に理解していないこと、また児童の実態と目標の乖離があることが要因と考えられる。

②デジタル教科書の流れのまま授業を行い、創意工夫が見られなくなっていることが要因だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

◆英語教育推進事業（①②①②）

- ・学校として英語教育に重点を置いて取り組んだり、公表会等で授業公開をしたりする学校を「推進校」として継続的に支援することを通して、児童の英語力の向上及び効果的な取組の普及を目的として行う。
(小学校 6 校、中学校 2 校、義務教育学校 2 校)
- ・国や県の外国語指導の重点及び学校の研究主題に沿ったモデルとなる授業を推進校と共に構築する。（「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、言語活動を通した指導の充実、指導と評価の一体化、MEXCBT・学習者用デジタル教科書等の活用 等）
- ・推進校の取組をリーフレット及びホームページ等で周知する。
(参考URL：https://www.pref.gifu.lg.jp/page/17407.html)

◆学習到達目標の見直し・改善（①）

- ・学習到達目標の見直しを促すため、令和 7 年 2 月に公表した「岐阜県版学習到達目標（例）」及び「学習到達目標を作成する際の 5 つのポイント」を学校訪問や市町村の研修会の場で周知する。
(参考URL：https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61777.html)
- ・校区の小学校と中学校の英語教育に携わる教員が、学習到達目標、指導方法、学習内容、評価方法等を共有できるように働きかける。

◆教育センター研修講座の充実（①②①②）

- ・校種を越えて小中高の教員が合同で行う研修講座の実施
- ・指導の内容や質の向上を目指した実事例の共有や活動モデルの提示
- ・小学校英語専科教員への研修を継続
- ・学校訪問を行い、指導の具体を学ぶ機会の設定

令和 8 年度 岐阜県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、積極的に自分の思いや考えを発信し、 伝え合う喜びを実感できる生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7: 60% ⇒ R8: 62%)

目標

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①原稿などを準備することなく、(即興で) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動の充実がうかがえる。
(生徒質問紙: R5:63%⇒R6:68%)
- ②スピーチやプレゼンテーションなどまとめた内容を英語で発表する活動の充実がうかがえる。
(生徒質問紙: R5:78%⇒R6:82%)

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表、達成状況の把握は100%(R5)であるが、各学校で学習到達目標を十分に活用しているとは言い難い。
- ②聞くこと、読むことに比べ、話すこと、書くことに弱さがある。(R5学調結果)

2. 要因分析

①②教育課程研究協議会や市町村の研修の場で、県で作成した令和5年度全国学調の結果を踏まえた指導改善資料等を活用し、指導・助言してきたことで、言語活動への理解が進み、生徒にとって魅力的な目的意識や相手意識をもたせ、見方・考え方を働かせるように意識した授業改善が行われたことが要因と考えられる。

①過去に県や市町村教育委員会が作成した学習到達目標の例をそのまま使用している学校が多く、教員が学習到達目標作成の意図を十分に理解していないことが要因と考えられる。

②4技能5領域をバランスよく育成することに課題があり、生きて働く知識・技能まで至っていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

◆英語教育推進事業(①②①②)

- ・学校として英語教育に重点を置いて取り組んだり、公表会等で授業公開をしたりする学校を「推進校」として継続的に支援することを通して、生徒の英語力の向上及び効果的な取組の普及を目的として行う。
(小学校6校、中学校2校、義務教育学校2校)
- ・国や県の外国語指導の重点及び学校の研究主題に沿ったモデルとなる授業を推進校と共に構築する。(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、言語活動を通じた指導の充実、指導と評価の一体化、MEXCBT・学習者用デジタル教科書等の活用 等)
- ・推進校の取組をリーフレット及びホームページ等で周知する。
(参考URL: <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/17407.html>)

◆学習到達目標の見直し・改善(①)

- ・学習到達目標の見直しを促すため、令和7年2月に公表した「岐阜県版学習到達目標(例)」及び「学習到達目標を作成する際の5つのポイント」を学校訪問や市町村の研修会の場で周知する。
(参考URL: <https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61777.html>)
- ・校区の小学校と中学校の英語教育に携わる教員が、学習到達目標、指導方法、学習内容、評価方法等を共有できるように働きかける。

◆教育センター研修講座の充実(①②①②)

- ・校種を越えて小中高の教員が合同で行う研修講座の実施
- ・指導の内容や質の向上を目指した実事例の共有や活動モデルの提示
- ・学校訪問を行い、指導の具体を学ぶ機会の設定

令和 8 年度 岐阜県 英語教育改善プラン

言語活動を核にした授業デザインによる「指導と評価の一体化」の推進

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 50%、B1以上 20% ⇒ R8 : A2以上 57%、B1以上 27%)

目標

- ☑ 言語活動 ☑ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☑ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☑ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

◆英語教育実施状況調査より
ICT機器を「人との文字でのやり取り」に利用した学校の割合の増加
(R6:27% ⇒ R7:33%)

- ◆英語教育実施状況調査より
- ①授業の50%以上の時間、教員が英語を使用する割合の低下
(R6:35% ⇒ R7:30%)
 - ②ICT機器を「発話や発音などの録音・録画」に利用した学校の割合の低下
(全国:71.8%⇒本県:54%)

2. 要因分析

教育課程講習会や教員研修に加え、学校訪問(2年間ですべての高校に訪問)を活用し、授業研究会等で言語活動の充実の重要性について、指導助言を行っている。
また、ICTを活用することで、多様な場面を想定したコミュニケーション活動が可能になっていると考えられる。

- ①ICTを活用して授業を進める場面は多く見られるが、教員にとって視覚的に指示できることが増えたため、口頭による指示の割合が減少したと考えられる。
- ②ICTを「やり取り」や「交流」などの双方向で活用する時間が増加したため、一方向での活用機会が減少したと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ◎「指導と評価の一体化」に向けた授業改善 (①②①②)
 - ◆教育用生成AIを活用した授業支援事業 (県内20校)
 - ・言語活動の指導を充実させ、自由英作文等の書く力を向上
(生成AIによる一次添削を教員が確認、アドバイスを追加し生徒に返却)
<<https://www.pref.gifu.lg.jp/zaisei/r8koukai2/15/137462.pdf>>
 - ◆授業力向上推進委員会 (県内7名の英語教員)
 - ・「指導と評価の一体化」等に関する討議、研究
 - ・成果の普及 (研修講師として講義、教育課程講習会で発表)
 - ◆教員の指導力・英語力の向上、国際的視野の醸成
 - ・改善点を踏まえた研修テーマの設定
(「論理・表現」の授業における言語活動、文法指導と言語活動、ICT活用 等)
 - ・英語教員をオーストラリアに派遣(6名)
 - ◆生徒の英語力の向上、グローバル人材の育成
 - ・県内高校生の留学を支援(10名)
 - ・ALT関連のイベント開催 (高校生英語キャンプ、English Online Session)
- ◎学校種及び課(義務教育課、高校教育課、教育研修課)の連携強化 (①②)
 - ◆小中高の接続に向けた授業改善 (他校種から学ぶ研修: 6講座)
 - ・校種を超えて学ぶ研修を実施、授業参観の機会を確保
 - ◆合同英語科主事会の定期開催 (年9回)
 - ・英語教育改善や学校の負担軽減に向けた協議や情報共有
 - ・「英語の授業をよりよくするための4つのポイント」作成、学校に周知



目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

岐阜県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50%	48%	53%	47%	55%	50%	57%		60%	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25%	19%	25%	18%	27%	20%	27%		30%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75%	52%	75%	53%	75%		75%		75%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		70%	34%	70%	37%	70%		70%		70%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	70%	41%	70%		70%		70%		70%	
		達成状況の把握（％）	70%	41%	70%		70%		70%		70%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85%	89%	90%	89%	90%	89%	90%		90%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		75%	32%	75%	35%	75%	30%	75%		75%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55%	57%	57%	57%	58%	60%	62%		62%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100%	100%	100%		100%		100%		100%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100%	92%	100%		100%		100%		100%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50%	34%	50%	37%	50%	47%	50%		50%	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		100%	94%	100%		100%		100%		100%	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	100%	100%		100%		100%		100%	